



冬の樹木

全道展会員 国松登

裸木の美しさは古くから文学や絵画に讃えられているが、冬の木立ちの美しさには心をひかれる。北海道の冬の樹木は、全身を現わに、それぞれ個性のある姿態で雪の中に立っていて、これは針葉樹にみられない一つの美しさであると思う。

夏の間、すがすがしい気分を与えてくれる都市の街路樹も、冬になると一向にかえりみられず、腰のあたりから下を縄ムシ口に包まれ、選挙ポスターが吊られたり、除雪機から降る汚れた雪を頭からかぶり、根元を雪に埋めて立っている姿はいかにも哀れである。

そろそろ街路樹の剪定も終わり、街に明るい陽さしも見られるようになった。剪り落とされて道に残った細い一と枝が自動車の車輪に軽くからまり、はじかれて私の足元に飛んできた。

札幌の街の中心部の車道は、除雪も行きとどいて雪がほとんどなく乾き、歩道もロードヒーティングで雪のない箇所もふえてきたが、曇った日は昼から方々の車道に工事中注意の黄や赤の電灯が明滅して、クリスマスツリーの電飾を想わせる。

年の暮れになると、私はいつも正月の松飾りや、世界中でクリスマスツリーに使用されるおびただしい松の木が伐られることだろうと気になるのだが、よく考えてみると、あれば伐り払われた下枝や間引きされた小さな木や、毎年クリスマス用に栽培されたりしているものに違いない、ということにも気づくのである。